

第3回 開発霞ワークショップ

日時・場所

平成25年10月9日(火) 15:00~17:00

東温市役所403会議室

第2回ワークショップの検討結果および今回の検討課題

ファシリテーターの二神先生より、第2回ワークショップの検討結果および、これにもとづく今回の検討課題について説明がありました。

- ①「水の確保」について
- ②「開発霞自然再生の整備内容」について
- ③「保全、再生対象生物」(指標種)について



意見交換

今回のワークショップ参加メンバー13名が3班に分かれ、検討課題について意見交換を行いました。抽出した意見を付箋紙に記入し、各班ごとに意見集約を行いました。



意見発表および総括

各班で集約した意見について、代表者による発表が行われました。最後に、ファシリテーターの二神先生より、総括として以下のコメントを頂きました。

◇ゾーン区分について

- ・全区間に雑木林を植えてという自然重視の意見と、よく使われているので、使い勝手よく使っていこうという利用重視の意見があった。

◇既設水路の改造について

- ・上流の泉については自然のままにしておいて、ジャブジャブ池は親水性のあるものにしようという意見があった。
- ・水路をどういう構造や形状に改造するか、植生をどうするかについては、何をどう保全すべきかによって違ってくる。次回、もう一度ここから議論話し合いをしないとまとまっていけない。

◇樹林・観察道について

- ・樹木については「何か目玉になるものを植えては」という意見があった。
- ・外来種の進入を想定し、メンテナンスのし易い設計や、あまり植生を増やさないといった検討も必要という意見があった。



第3回 開発霞ワークショップ

○各班の意見 【1班】

参加メンバー	ワークショップ状況	集約意見（発表内容）
【1班】 愛媛県水産研究センター 清水さん 重信くらしの学習会 菊池さん 自然と共に生きる会 相原さん 上村自治区 石丸さん	  メンバーによる意見交換 清水班長による意見発表	1. 開発霞自然再生の整備内容について ① ゾーン区分について ・外から来た人が使っているものはある程度活かそうという意見や、あまり道具を考えず全部雑木林にしようという意見もあり、もう少し自然再生へ寄った方が良いという意見もあり、まとまる話ではなかった。 ・泉をどうするか？池をどう使うか？によって植栽は変わってくる。植栽が増えれば自然が多い公園になるし、少なければ公園（ほい公園）になる。全てがリンクしてくるので簡単には纏まらない。 ② 既設水路の改造について ・水路については、今ある水路の蛇行の形状も含めてトレースしているが、それが果たして良いのか？ ・下流ほど環境が厳しく、段差があったり、日射量も多く、人が一番利用する場所を通る部分なのに、水生生物保全ゾーンとするのはいかなのか？ ・水生生物の保全をある程度考えた設計にする。また水深を一律にするのではなく、川幅や水深、緩急をいろいろ工夫して、いろんな生き物が利用しやすい場所を創出してやるのが良い。 ③ 樹林、観察道について ・減らすことは簡単だが、増やすことは時間がかかるので、一度密植するような感じで植えてみてはどうか。 ・霞の奥の方へ行くほど植栽本数の制限が緩いと思うので、思い切って薄暗くなるくらい植えてみて、まずくれば切ってもやればよい。
ポストイットへの記載内容		
1. 開発霞自然再生の整備内容について ① 整備にあたってのゾーン区分について ・全てのゾーンに植樹したらどうだろうか。（不要になれば切れれば良い） ・今ある水路や道の形にとらわれず、生物や公園の形に合った計画が良い。 ② 既設水路の改造について ・泉の深さがあれば、ある程度大きな魚も住めて良いのでは？ ・水生生物保全ゾーン（下流側）は日当たりが良すぎるため、生物が住みにくいのでは？ ・水路の形も深さや幅等に変化をつける方が良い。 ③ 樹林について、観察道について ・樹林の面積を増やした方が良いのでは？（樹木環境の作る影の量は？）		
2. 保全、再生対象生物について ① 目標設定の考え方について ・水路や泉の形が決まらないと目標を決めることは難しい。 ・目標生物については良い悪いを判断するのは、今はできない。 ・魚類に関しては提案目標が厳しい。 （小目標（メダカ、ドジョウ等）⇒中目標、中目標（スジマドジョウ等）⇒大目標） ・あえて目標を決めるのではなく、環境を整えるべき。 ② 小、中、大目標での「保全すべき生物」「人を呼ぶ生物」について ・中目標として、スジマドジョウ、ヤリタナゴは難しいが、夢のある目標として設定。 ・小目標はオイカワ、カワムツ、シマドジョウ。 ・周辺に環境が無いと、小目標のメダカ、ドジョウ、ナマズは難しい。		
2. 保全、再生対象生物について ① 目標設定の考え方について ・水路や泉や植栽をどうするかが見えてこない、何が最初やってきてどれ位時間がかかろうかわからない。 ・多少夢を持たせた目標を設定しなければ地域の理解が得られにくい。施工後に様子をしながら、現実的に来そうなのをもう一度考えてはどうか。 ② 小、中、大目標での「保全すべき生物」「人を呼ぶ生物」について ・小目標のメダカは地理的に難しい。小目標はすぐに入ってきそうな生き物にした方がよい。オイカワやシマドジョウであれば、水路が繋がれば入ってくるだろう。 ・スジマドジョウやヤリタナゴは水路の中で生活史は完結できないので繁殖することは難しい。特にヤリタナゴは二枚貝が育たないと無理であるため難しい。 ・ヤリタナゴの個体群は、佐川川から上流は50年位ほとんど絶滅状態で、森松周辺にしか残っていないかもしれない。中目標より大目標になるかもしれない。 ・スナヤツメは35年近く生息記録がなく、愛媛県で絶滅しているのでは。		

2

第3回 開発霞ワークショップ

○各班の意見 【2班】

参加メンバー	ワークショップ状況	集約意見（発表内容）
【2班】 松山東雲短期大学 松井さん 重信川美化推進の会 武智さん 上村土地改良区 津川さん 東温市 丹生谷さん	  メンバーによる意見交換 松井班長による意見発表	1. 開発霞自然再生の整備内容について ① ゾーン区分について ・いろんな人が様々な使い方をしている。自然再生だけでなく、そういう使い方も残しておきたい。 ② 既設水路の改造について ・水路を作ったあとは自然のままの再生でいいのではないかと意見もあったが、水路を改修したら、裸地や水の中にセイタカアワダチソウやクレソン等の外来種が入ってくる。そういった植物の入りにくさというの考えないと、一般の人は自然に戻ったとは思わず、入れない場所だと思うだろう。地下茎のあるものは植えないとか、そういうメンテナンスのことにしても考えた設計が必要である。 ・ジャブジャブ池は子供たちが行きやすい場所なので親水性のあるものにし、上流の泉は湿地の池として何もなくてもいいのではないかと。 ③ 樹林、観察道について ・桜や椿などの花木を植えてもいいのではないかと。植栽するならメンテナンスの少ないものが良い。 ・樹林の中の散策道については土系の舗装で良い。ジャブジャブ池の周りには木のボードウォークがあっても良いと思う。 ・上流側の林は自然のまま密植という話もあったが、鳥散布による密林の形成も早いので、鳥散布により自然な林に誘導する方法もある。
ポストイットへの記載内容		
1. 開発霞自然再生の整備内容について ① 整備にあたってのゾーン区分について ・川を作ったあとは自然にまかせることで良い。 ・泉を目立たせるような工夫があっても良いのでは？ ・学校が使って欲しい。 ・トイレは作れないか？（ゾーン設定に合わせて）⇒常設トイレは× ・現在は遊具のある所がメイン。 ・泉の周辺を豊そうとさせると人が利用しにくくなる。 ② 既設水路の改造について ・上流の泉を湿地池にして、下流の泉を親水池にしてはどうか。 ・昔のジャブジャブ池は深かった。 ・ジャブジャブ池の接続を切ったら良いのでは？ ・ジャブジャブ池には少し植栽しても良い。 ・水路に覆土するとセイタカアワダチソウが繁殖する。覆土するなら維持管理に注意。東温市の草刈が負担。草刈を楽にする方法は無いのか？ ・地下茎があるような植物は植えない方が良い。 ③ 樹林について、観察道について ・泉の上流は放っておくことで自然に樹林をつくる。手をつけなくてもOK。 ・自然に入ってくるような種は植樹しなくてもよい。 ・（花木の）桜（ヤマザクラ）や椿など見た目がいいものを植えてもいいのでは？ただし、花木を植えるなら人手がいらないものが良い。 ・明るい森を作るにはメンテナンスが大変。		
2. 保全、再生対象生物について ① 目標設定の考え方について ・小目標、中目標のテーマ設定についてOK。 ② 小、中、大目標での「保全すべき生物」「人を呼ぶ生物」について		

3

第3回 開発霞ワークショップ

○各班の意見 【3班】

参加メンバー	ワークショップ状況	集約意見（発表内容）
【3班】 愛媛大学 三宅さん 水をきれいにする会 武井さん 重信川河川愛護モニター 中村さん 松山河川国道事務所 関谷さん	 メンバーによる意見交換 三班班長による意見発表	集約意見（発表内容） 1. 開発霞自然再生の整備内容について ① ゾーン区分について ・駐車場に一番近い場所にみんなが遊ぶ場所があって、奥の方に自然な場所がある、今回提示されたゾーニングでおおまかには良い。 ・池の配置は遊ぶゾーンに遊ぶ池があって、保全ゾーンには生物の保全を目的とした池があった方がよい。 ② 既設水路の改造について ・遊ぶゾーンにあるジャブジャブ池は親水性のあるものにし、上流の泉は湿地的なものにするのが配置的に良いだろう。ただし、外来生物が入ってきて池が埋め尽くされる可能性もあるので、維持管理が非常に大変になるだろう。 ・上流の泉は広瀬霞のようなイメージで、とりあえず器を作って2〜3年放っておいて、入ってくるものを観てからでいいのではないかな。 ・ジャブジャブ池も上流の泉も、水は地下水100%の池にした方が透明度も高く管理上も良いのではないかな。 ・水路について、ヤリタナゴは川の真ん中にはいないので、川の横にワンドがあるような場所を設ける。ミナミヌマエビ等は、川の横に水草があるような場所に大量に生息するので、最終的にもう少し細かい工夫をする必要がある。 ・例えば、水路に石を置く、倒木を入れる、ワンドを作るなどそれぞれに適した生息場所を工夫することが必要になる。
ポストイットへの記載内容		
1. 開発霞自然再生の整備内容について ① 整備にあたってのゾーン区分について ・本来の自然ではなくて人が遊ぶための自然で良いと思う。 ・上流の泉は広瀬霞のように、下流の泉は松原泉のように。 ・自然の程度をどのレベルにするか。 ② 既設水路の改造について ・ジャブジャブ池の水は泉からのキレイな水を入れるのが良い。 ・ジャブジャブ池は親水目的とし、上流の泉は自然ゾーンにする。ただし、上流の池（湿地池）は管理が難しい。 ・良い湿地にするには地元の方の協力が必要。（管理する意味で） ・水路についてはワンドを作るとか、石を置く、倒木を入れるなどそれぞれに適した生息場所を工夫することが必要。 ③ 樹林について、観察道について ・植える木にもテーマが欲しい。（⇒今の案でいい。） ・ボードウォークについても今の案で良い。		③ 樹林、観察道について ・樹林については、鳥や虫が利用することを考えれば今の案で良い。ただし一方で、赤坂泉の桜のように、テーマを決めて話題になるような木を植えて人を惹きつけるものがあるのも良い。 ・散策道は土系舗装が適切。車いすや年配の方が来られるのである程度の整備が必要。
2. 保全、再生対象生物について ① 目標設定の考え方について ② 小、中、大目標での「保全すべき生物」「人を呼ぶ生物」について ・小目標のサクラタデは3年では無理と思う。大目標にしてはどうか。 ・中目標のカンガレイはハタベカンガレイでは？またツマグロキチョウは難しい。 ・大目標は今の案で良いと思う。		2. 保全、再生対象生物について ① 目標設定の考え方について ・専門の詳しい方からいろいろ意見をいただいて設定を変えていけば良い。 ・大目標については、望みは大きく持つという意味で今の案で良い。 ② 小、中、大目標での「保全すべき生物」「人を呼ぶ生物」について ・小目標のサクラタデは3年では無理と思う。もう少しレベルを上げてはどうか。 ・ツマグロキチョウは少し難しいのではないかな。 ・中目標のカンガレイはハタベカンガレイでは？